

地域おこし協力隊 No.16



農家民泊推進担当の間瀬です。7月31日から8月2日までの3日間、緒川地域と盛金地区の農家で、江戸川区立上一色中学校の生徒 93 人を受け入れました。

私は、今後民泊を推進していくうえで、受入農家の高齢化や後継者不足問題の解決が不可欠であると感じ、そのためには、農業の振興も同時に行わなければならないと思いました。強い農業があつてこそ、その民泊の受入規模も拡大でき、体験の価値も上がると思います。

そこで立ち上げたのが『常陸大宮さんち (<https://hitachiomiya-sanchi.com>)』です。『常陸大宮さんち』では、市の情報発信、野菜などの商品販売、農業体験の申し込みを行うことができます。

まずは、商品を通して市を知ってもらい、体験に来てもらうことが民泊の推進に繋がると期待しています。現状の情報発信は、まだまだ市内の情報を網羅できていないとは思えません。市外の方に本市を知ってもらうため、たくさんの魅力的な商品の情報をお待ちしております。今は私一人の活動ですが、目標は株式会社を立ち上げ、市民の皆さんによる出資と市民の皆さんによる運営にしていきたいと思っています。

★パラオ共和国について紹介します★



今月はケネリー・レケメルが
パラオの文化を紹介します！
これは、「ストーリーボード」です。

パラオの伝統的な文化といえば、“Ngasech”（ガース）です。“Ngasech”は「第一子の誕生を祝う儀式」という意味で、出産後1週間程度かけて行われます。妊娠中に衰えた母親の体力・気力を回復させるとともに、誕生した赤ちゃんが元気に育つようにとの願いが込められています。母親は特別なオイルを全身に塗り、伝統的な衣装を身にまとい、親族や友人はその母親を囲み、歌ったり踊ったりしてみんなでお祝いをします。この儀式は今でも若い人たちに受け継がれているパラオ特有のものです。また、パラオには「ストーリーボード」という木彫りによる伝統的な工芸品があります。昔パラオには文字がなかったので神話や伝統を後世に伝えようと、木に彫って表現しました。現在ではお土産として観光客に人気があり、市役所1階のロビーにも、私たちが作ったパラオマツ

プと一緒に「ストーリーボード」が展示してあるので、ぜひ見てくださいね！

◇東日本大震災の被災地（東北地方）を訪問しました

7月2日に東日本大震災・被災地ボランティアに参加しました。東北はとても綺麗なところで、広くて、たくさんの自然に囲まれていました。私は、そのような場所で多くの人が地震や津波で犠牲になったことが信じられず、とても悲しく感じました。そこに住んでいる人々が、愛する人を失ったことや、愛おしいものを失ったことに、私は非常に心が痛みました。しかし、東北の人々の心はとても強いもので、彼らは家を建て直し、お店を再開するために6年以上もの間、悲しみと闘いながらも頑張っていて、ものすごく速いスピードで復興していました。そこで人々が残酷な記憶と共に一生懸命生きている姿に、すごく心を打たれました。

私は今回東北を訪れて、この悲しい現実に向かい合う日本人の強さをパラオの人たちに必ず伝えたいと思いました。とても素晴らしい経験となりました。



いっしょにまちづくり



フヨイデ DAN (志村大宮病院)
佐藤 芳

私の役割は「摂食・嚥下障害認定看護師」として、地域の方がどこで生活しても「食べる楽しみ」が損なわれないように「口から食べる」ことを繋げることです。私が参加している地域活動グループは毎週木曜に「フロイデ健康カフェ」を開いて、地域の皆さんとストレッチや運動をしています。休憩中のおしゃべりの中で健康に関する話題で情報交換したり、「誤嚥性肺炎予防の体操」についてお知らせしています。

7月16日には北富田地区の花火大会にボランティアとして参加しました。今年初めての催しということでしたが大勢のお客様で大盛況でした。やきそば、バーベキューは地元の野菜を使っていて、大変おいしかったです。90歳以上の参加者も3人いらして、全員に参加してもらうことに意義があると実感しました。

今後は、皆さんの「食べる力」「参加する力」を生かしたイベントや「口から食べる」ことに関する出張勉強会を考えています。「口から食べる」ことの大切さを理解して頂き、どこに住んでいても「口から食べる」ことをバトンのように繋いでいける地域づくりに取り組んでいきたいです。